

れにもかかわらず、現代の都市生活は、子どもからその栄養素をなくしつつある。高層建築のマンションに住む子どもたちは、親がよほど気をつけなければ、自然物にふれることができない。これは、現代の親にとっても、重大な課題である。同時に、これは、幼稚園のとりくむべき課題でもある。こぎれいなことを好む子どもでも、子どもは原始的な遊びを喜ぶ。その喜び方は、小さいときから自然物にふれ親しんできた子どもたちよりも、一層、はめをはずし、乱雑である。その時期をどのようにしてのりきるかということは、容易なことではない。担任の先生と主任、園長の理解と忍耐を要する。

子どもの行動を、外側から客観的に見ることが科学的であるという考え方が、この二十年ほど、強く支配してきた。私もまた、そのような考え方からなかなか抜け出すことができなかった。しかし、人間のことを考えるのに、客観性ということは第一要件ではない。人間のこゝろにいたしてふれることができ、内なるものがいかにして育てられるかということが重要である。それは、個人の内面というだけでなく、人間の本性にふれることである。まして幼児教育というときに、それは、外的な要素を組み合わせてできることではない。そういう考え方は根本的に間違っている。教育は、内外両面を備えた人間そのものに、じかにぶつかって、そこから生み出していくものでなければならぬ。それは人間同志の落着いた営みであるはずである。

内面から見る見方ができるように、子どももおとなも、混沌の中からつくり出す喜びをもてるように、一九七三年の宿題は大きい。

幼児の教育 第七十二巻 第一号

一月号 定価一〇〇円

昭和四十七年十二月二十五日印刷
昭和四十八年一月一日発行

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村一ノ一一

印刷所 凸版印刷株式会社

111 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所
所 フレーベル館にお願いいたします